

北陸線・ローカル線の存続と公共交通をよくする富山の会

NEWS ニュース NEWS

2010年12月20日号

発行：公共交通をよくする富山の会・事務局 射水市海老江鎌合1-2 富山高等専門学校射水キャンパス・岡本研究室内
TEL・FAX 0766(86)5293 メール thlt@infoseek.jp HPアドレス http://www5c.biglobe.ne.jp/~thlt/

第十回総会を開く 十一月二七日

十一月二七日、第十回総会が二〇人が参加して開催されました。奥村義雄代表世話人は、結成以来の「会」の取り組みをふり返りながら新たな前進への願いをこめて挨拶しました。

「いま問われている、国の責任とJRの社会的責任」と題して渡辺眞一世話人が問題提起。岡本勝規世話人が経過と取り組みの方向を提案。参加されたみなさんの意見・討論のうへ、来年度の活動を確認しました。

県の「経営計画」の検討など 来年度の取り組み決める



(写真中央は開会挨拶をする奥村代表世話人)

- 県は並行在来・北陸本線の「経営計画」策定作業に入っており、「経営計画」の研究など。
- シンポジウム「Part6」は、県の「経営計画の概要」など。来年6月予定。
- 青い森鉄道と北海道新幹線関連の視察。来年5月予定。
- JR北陸本線の実態調査と要求。
- 貨物調査（荷主など）
- 富山ライトレールの検証やコミュニティバスの調査などを確認しました。

今年度の主な活動について（経過報告）

「会」の運動さらに発展へ討論

討論では、JRの「青春切符」は第三セクター会社となった路線を買うことはできないなどJR経営から分離した並行在来線の問題点。北陸本線は鉄道貨物の大動脈であり荷主などの調査を。知事などが言う「利益剰余金」「貸付料」は新たな運営会社の安定的経営につながるのか。城端線・氷見線での運動を。公共交通をよくする富山の会の「提言」などは行政にも影響を与えているなどや、会の財政活動の強化を求める意見など活発な討論がおこなわれました。

県の経営計画に合わせ 会の役員補充を確認

役員は、現役員を再選するとともに、並行在来線を受け継ぐ新会社の経営計画が検討されているものと、鉄道関係者などの役員を補充することを確認しました。

渡辺眞一世話人の問題提起と 会計報告の概要を同封します

- 2月25日－第三次提言「将来も維持可能な並行在来線・北陸本線のための－JRの社会的責任と国の役割を求める提言－」を発表。県と各市町村長と担当部署、並行在来線対策協議会構成団体、全県議に送付、記者会見
- 4月から5月上旬－「北陸新幹線開業に伴う並行在来線の経営分離に関する沿線住民アンケート」を北陸本線の全駅周辺で各戸配布 3000枚を超える
- 6月4日－アンケート524通を集約し要点とシンポジウム開催について記者会見
- 6月13日－北陸新幹線の開業で 北陸本線は どうなる どうする Part 5－シンポジウム JRに期待される役割は？－CiCを会場に約60人が参加。「朝日」「毎日」「中日」「読売」「北日本新聞」「北日本放送」などが報道。案内を県と各市町村、JR西日本、県内経済団体、全県議に送付
- 9月6日－滋賀県立大からライトレール視察への対応
- 10月8日－福井県で「北陸新幹線福井延伸と在来線を考える会」が発足。講師派遣
- 10月30、31日－北陸信越5県連絡会総会（長野）
- 11月4日－国労西日本青年部学習会。講師派遣